

端〇三米ヲ挿入セシ場合 攝氏 四百三十度

(二) 大岩塊ノ下ニテ楔形大孔中ノ氣温

同 三百九十度

(三) 小裂隙中表面ヨリ〇六米内部ノ岩石温度

同 四百五十度

(四) 小孔中表面ヨリ〇三米内部ノ岩石温度

同 四百五十七度

(五) 徑〇一八米ノ小孔中ニテ表面ヨリ四尺以下ノ岩石温度

同 三百九十八度

(六) 徑二米ニシテ水蒸汽ヲ發出セル岩石中ニテ六セ、メノ

裂隙中深サ〇三米ニ於ケル岩石温度

同 二百度

第九章 結論

明治二十七年噴火以來殆ンド平穩ニ復シ少量ノ水蒸汽ヲ發シ活火山トシテ唯其名ヲ保ツコト茲ニ十有五年ナリ、今年一月以來徐々活氣ヲ帶ブルニ至リ時々鳴動ト共ニ降灰アリシガ、三月三十日午前七時二十分小爆裂ヲ演ジ更ニ二週日ヲ經テ第二回爆裂ヲ行ヒ、四月十七日ヨリ十九日夕刻ノ間ニ火口内

ニ熔岩ヲ噴湧シ一新山ヲ形成シ、爾來熔岩ハ漸次冷却シ周圍ヨリ崩壞ヲ始メ又頂部モ扁平ニ變ジ後五月十五日小爆裂アリテ新山南側ニ裂罅ヲ作り現今其裂罅ヨリ多量ノ噴汽アルモ亦周邊ノ小隙孔ヨリ點々噴汽セリ。

第一回及第二回ノ爆裂ハ熔岩噴出ノ準備活動ニシテ、第一回ニ於テ先ヅ小孔ヲ穿チ少シク其通路ヲ開キタルモ猶ホ熔岩噴出ニ適セザルヲ以テ、更ニ第二回ノ爆裂ヲ演ジ茲ニ漸ク地表ト地下岩漿部ニ連絡ヲ生ゼシメ外部ノ壓力ト岩漿ノ脹力トニ依リ四月十七日ヨリ十九日夕刻間ニ熔岩ヲ噴湧セシメタルナリ。

今回樽前岳中ニ新山ヲ湧出スルニ先タチ二回の爆裂(盤梯、吾妻、鳥島)

火山等ノソレニ比セバ甚ダ小爆裂ナルモ本火山ニ於テ本年ノ活動中稍見ルベキ爆裂ト云フベシアリ、其爆裂スルニ當リ

豫メ鳴動スルモノト毫モ音響ヲ發セズシテ突然爆裂セルモノ

ト二種アリ即チ前者ハ三月三十一日ノ現象ニテ後者ハ四月十

二日ノ爆裂ナリ、前者ハ大爆裂ヲ生ズル前ニ小爆裂ヲ數回行

ヒ小音ヲ發シ然ル後大爆裂ヲ爲シタルモノナルベシ、四月十

二日ニハ小爆裂ヲ伴ハズ直チニ大爆裂ヲ行ヒタルヲ以テ爆裂

前ニ音響ヲ傳ヘザリシモノナルベシ。

新山ヲ推上噴出シ其漸ク冷却スルニ從ヒ表面ニハ裂罅ヲ生ジ

内部ハ次第ニ凝結シテ容積ヲ減ジ、表面ハ落下スルト同時ニ

頂部ニ小突起ヲ殘シ一様ニ陷落シテ扁平トナル、此ノ如ク將來漸次冷却ヲ中心ニ及ボサバ從ツテ頂部ニ凹所ヲ造ルニ至ルベシ。

熔岩ノ性質ハ之ヲ我邦諸火山ノモノト比較スルニ第三紀以後噴出シタル輝石富士岩ト大同小異ニシテ岩石學上著シキ差別ヲ認メズ、唯多量ノ水分及ビ瓦斯ヲ包有セシコトハ其多孔質ナルヲ以テ明カニ之ヲ了解スベク、本火山ヨリ既ニ噴出セル熔岩ニ比セバ磁鐵鑛及普通輝石少シク多量ニシテ、斜長石中ニハ燐灰石多ク包裹セラル、差アルノミ。

支笏湖ヲ距テ、其北ニ聳エル「活火山」エエニワ「岳」ハ近年漸ク活氣ヲ失ヒ水蒸氣ヲ發スルコト甚ダ少量ナルニ不拘樽前岳ハ活動ヲ初メ、而シテ此レガ爲メ「エエニワ」岳ニ毫モ變動ヲ見ザルハ甚ダ奇怪ト云フベシ、恐ラク兩火山ハ全ク其岩漿源ヲ異ニスルモノナルベシ。

現今樽前岳ハ新山ヲ生ジタル後其周邊ヨリ噴汽シ所謂噴汽期ニ復シタルガ如キモ、新山成生以前ノ噴汽狀態ニ比スレバ趣キヲ異ニス、以前ハ火口底噴孔ヨリ直チニ噴出セシガ一旦熔融セル岩漿出デ、火口ヲ埋メタル後新山ニハ噴火口ナク唯裂罅ヲ通ジテ噴出スルノミニテ其量ニ於テハ三月三十一日以後ヨリモ減少セルガ如シ、其噴出量ハ地下ニ於テ既ニ減少セル

モノカ或ハ新山熔岩ノ爲メニ噴汽孔遮ラレテ噴出セザルモノナルカ之レヲ明カニスル能ハザルモ、若シ該裂罅ニシテ絶エズ多量ノ瓦斯ヲ噴出シ地下ニ鬱積セシムルモノナカラシメバ之レヲ以テ該火山活動ハ一段落ヲ告ゲタリト云フベシ。

●圖版説明

第一圖 新山噴湧前即チ四月四日火口壁ノ東側ヨリ火口内ヲ臨ミタル圖ニシテ當時火口中ノ最モ卑キ處ヨリ噴出スル水蒸氣ハ淡褐色ヲ帶ベリ。

第二圖 火口壁ノ南部即チ現今龜裂ヲ生ジタル所ヨリ四月四日火口内ヲ見タル圖ナリ曩ニ此地ヨリ「マツカリヌプリ」(蝦夷富士)ヲ望ミシガ今日ハ新山ノ爲メニ遮ラル。

第三圖 外輪山東南ノ一角ヨリ四月四日火口丘ヲ距テ、「マツカリヌプリ」ヲ望ム(第四圖參照)

第四圖 外輪山東南ノ一角(前圖ト略ボ同一ノ位置)ヨリ四月二十三日火口内ノ新山ヲ望ミシ狀。

第五圖 火口壁ノ北側ヨリ四月二十三日新山ニ對シタル圖。

第一版